



The Door Step to Japan

vol.45

2020年 秋冬号

日本の扉
浅草
浅草・槐の会
ASAKUSA

令和二年 庚子

令和三年 辛丑

七月
(文月)

四万六千日(ほおずき市)

一月
(睦月)

初詣
浅草名所七福神もろで

八月
(葉月)

万霊燈籠供養会

二月
(如月)

節分の日
針供養

九月
(長月)

台東薪能
彼岸会

三月
(弥生)

浅草観音示現会
金龍の舞

十月
(神無月)

金龍の舞
菊社祭

四月
(卯月)

釈尊誕生日(花まつり)
白鷺の舞
浅草流鏑馬
早慶レガッタ

十一月
(霜月)

白鷺の舞
酉の市

五月
(皐月)

宝の舞
三社の祭
お富士様の植木市

十二月
(師走)

歳の市(羽子板市)
除夜の鐘(弁天山)

六月
(水無月)

お富士様の植木市

※催事日程につきましては変更になる場合がございます。予めご了承ください。

浅草を彩る9月~2月の代表的催事

9月

長月

彼岸会

お彼岸は、気候もよく太陽が真西に沈むこの時期を修行にあて、太陽の恵みに感謝し五穀豊穡を願う祈りに端を発しています。浅草寺では、五重塔に霊柩を安置しているご信徒に拝殿を開放し、自由に参拝していただいています。

10月

神無月

金龍の舞

浅草寺の正しい名称は「金龍山浅草寺」といいます。金龍山の山号は、浅草観音承応縁起に書かれている「十八日、寺辺に一夜にして松千株ほど生ず、三日を過ぎて天より長さ百寸ばかりの金鱗の龍、松の中に下りし」に由来しています。この故事を踏まえて創作された舞が「金龍の舞」です。毎年3月と10月の18日に、いなせ半纏、はらがけ、もも引きの江戸っ子姿の浅草寺舞保存会メンバー9名の手によって勇壮に演じられています。



10月 浅草菊花展

11月

霜月

白鷺の舞

今でも浅草は江戸の名残を最も色濃く残す町、東京の代表的下町として全世界の人々の人気を博しています。平成元年11月3日から始められた「東京時代まつり」は、東京の歴史と文化の原点は浅草であるという観点から、江戸・東京の歴史絵巻の行列が浅草の町を行進します。さまざまな時代絵巻は、多くの観客を集める催しとなっています。この時代絵巻の一つに白鷺の舞があります。白鷺の舞は古い時代の祭礼行列の中にある「鷺舞」の姿を浅草観光連盟が復興したものです。



酉の市

酉の市は、秋の収穫期に神社に鶏を奉納した「とりまつり」に由来し、神社から農家に授ける熊手が「とりこむ」ということで縁起が良く、商売繁昌を願う催しとなりました。酉の市で有名なのが浅草・千束にある鷺（おとり）神社。その愛称である「おとりさん」がいつしか酉の市のことを指すようになりました。酉の市は11月の酉の日に開かれます。三の酉までである年は火事が多いという俗説があります。火の用心にはお気をつけ下さい。



11月 白鷺の舞

12月

師走

納めの観音、歳の市《羽子板市》

毎年観音様の御縁日である18日の前後を含めた17、18、19日の3日間行われており、もとは正月の飾り物などを中心とした市でした。今でも観音北側の広場では、しめ飾りなどの卸売りをするお店も立ち並び通常「ガサ市」と呼ばれ、これを小売りする人達が仕入れに來ています。江戸末期より「生まれた子が邪気をはねのけ健やかに育つ市に通じる」との謂れから女兒の出産には必ず羽子板を贈る風習が始まり、今では「羽子板市」と呼ばれるようになりました。



1月 浅草観音初詣

1月

睦月

浅草観音初詣

除夜の鐘と浅草寺開扉とともに始まる初詣。正月期間中、表参道である仲見世をはじめ境内は華やいだ人々で埋まります。

2月

如月

節分会

節分とは一年の春夏秋冬を分ける言葉で本来年に4回あるはずですが、現在では立春の前日のみをさしています。浅草寺では1時と2時の2回にわたり、信徒の有志が年男となり本堂東側回廊の舞台で、また西側影向堂の舞台では観光連盟主催による豆撒きが古式追儀式の終了後2時半~6時までの間5回に分けて行われています。



1月 江戸消防記念会・はしご乗り

9月~2月 その他の催事

- ◆七五三加持会
- ◆除夜の鐘
- ◆浅草名所七福神詣り
- ◆江戸消防記念会・はしご乗り
- ◆待乳山聖天・大根祭り
- ◆針供養



2月 節分会

第九回

「浅草の町々
前編」

浅草寺子屋

講師
荒井修

この記事は2010年に文化・芸術・観光のまちづくり協会が主催した「浅草寺子屋」の内容を再現したものです。講師を務めたのは我が槐の会のメンバーであった荒井修氏。浅草の老舗舞扇店「荒井文扇堂」の四代目店主です。この講演の6年後、2016年2月22日に逝去されました。浅草や江戸の文化に精通し、浅草の町興しのオビニオンリーダーでもあった氏の知見を後世に伝えていくために、小誌ではこの記事企画しました。

 やると言っちゃって
後悔した「町の話」

はいどうも。今日は「浅草の町々」という話をさせていただくわけなのですが、実はこの題はですね、えー、非常にやりにくいんです。なぜかっていうと、町といっても氏子町会というような考え方をすることもあれば、持ち場によって違ったりね。大体「寺町」っていうのは寺社奉行の担当なんですけど、後に浅草っていうのは町としてかなり大きくなって、寺社奉行と町奉行と両方の担当になるんです。そういうことがあって、「浅草の町を語る」というのは、非常に難しいことを言っちゃったなと思って、実は大変後悔したのがこれなんです（笑）。でも言ってしまったからにはやるぞということで進めていきますので、よろしくをお願いします。

えー、町会とか町の名前とかいうのは、時代によってまた、いろいろ違うんですね。浅草では幕末の頃だと十八ヶ町とかね、明治初年になると三十九ヶ町とか言われたり、いろいろと町の名前とか数が違って来ます。途中で一つの町が分散して分かれたり、二つ

の町が四つになったり、三つになったり。

今日では四十四ヶ町になっていて、俗に東部十二ヶ町、西部十六ヶ町、南部十六ヶ町なんていいますね。中でも浅草寺に近い浅草東町会、仲見世町会、浅草中央町会、それから浅草西町会、浅一三栄町会、浅草公園町会は南部表六ヶ町といってね。この六ヶ町っていうのは江戸時代はありませんでね。何でかっていうと、大体この辺っていうのは浅草寺の境内を拝借している連中ですから、町会なんて名乗っちゃいけなかったんです。

 昔は取次電話で
「地内の荒井さんからよ」と

この切絵図（図1）を見ていただくと「田原町三丁目」というのが出てきますね。一丁目、二丁目というのは左の方にあるんですけどね。三丁目には今、蛇骨湯という銭湯がありますね（2019年閉店）。蛇骨長屋がここにある。これは地べたを踏んだら蛇の骨が出てきたということでこの名前になっているんですけど。つまり国際通りと浅草通りがぶつかる角に田原町三丁目がある。これはちゃんと町名が入っているんです。でもそれ以外の浅草寺周辺

は町名が無いでしょう？

こういったところは、あたしらが子供の頃…っていうのは戦争が終わった頃ですけどね。大体、一般の家でも電話を引くようになってきた頃ですよ。ね、三遊亭円歌という人の落語の中に、取次電話のネタがありますけど。近所で1軒に電話が入ると、知合いの人はその家に電話かけてきて「お向かいの何々さんを出していただけますか」なんて呼び出してもらって。1台の電話にご近所宛の電話がみんな入ってきたりしたもんです。

あたしは名字が荒井なもんですから、親戚に荒井ってのが何軒あって。「もしもし」って電話すると相手も分かるんでしょうな。「今、変わります」って言った後に「地内から電話よ」なんて言われたもんです。地内っ

ていうのは、浅草寺の「境内地内」っていう意味です。大体今の南部表六ヶ町の連中は「地内」というんです。

 雷門もなくて
人造池で水遊び

それから寺領地、寺の領地ですね。あたしらは大体仲見世の裏通りのところに住まいがありまして、あたしの店は裏通りにもあるんですけど、そこが住まいだったんです。あたしのおふくろがあたしを生んだのも、あの角辺りで産んでるんですね。ですから子供の頃からあの近辺が全部遊び場だったんです。もちろん雷門ありませんでした。門も何もないあの入り口に人造池の小さいのがあってね、そこで池の中に入って遊んだりしたもんです。



図1：今戸寛輪浅草絵図（嘉永6年尾張屋版切絵図より）



図2：浅草神社にある河竹黙阿弥顕彰碑

雷門ができる前です（雷門は1960年に再建）。本堂も今の本堂じゃなくて、仮本堂があった時代ですから。雷門は幕末になくなっていったんですけど、境内も戦争で何もなくなって、二天門と浅草神社、三社さまがあったくらいですね。そんな時代です。その頃にはもう、町会というのは出来てます。今の町会とはちょっと違いますけど。例えば今の浅草中央町会っていうのは、こっちは昔、雷門（町会）だったんですね。ですから雷中会館なんていまだに言ってますけど、雷門中央町会っていうたんですね。

その以前は浅草の連中はみんな「地内」って言ってたんです。浅草寺門前に正智院というのがありますね。この正智院に芝居の「白浪物」なんかを書いた河竹黙阿弥が住んでいたんです。ですから歌舞伎界の連中は「地内の師匠」なんて呼んでたんですね（図2）。

浅草寺の寺領地500石 大部分は田んぼか畑

それに対して残りのところを知行地といって、町名があるんです。それでどうやって町ができていくのかという話になるんです。徳川幕府ができて、元々は幕府の最初の祈願所、祈願寺が浅草寺なんです。菩提所が芝の増上寺。それが上野寛永寺が出来たことで、菩提所も祈願所も一つにまとまっちゃったようなところがあるんですね。浅草寺にはまず500石が与えられました。みんな石高で言いますね。500石っていうのはどのくらいなのかというと、わりとお給料の安い旗本くら

いですか。だけど寺でもって500石って大きい方なんです。寛永寺は1万1千石ですか。っていうのは異常に多いんで。これは別格として考えた方がいいだろうと思います。

旗本が500石をもらってても、バラバラに分かれるんです。この辺とこの辺と…って小さいところを細かくいくつも渡された挙句、まとめると500石っていうのが多いんですけども。寺でいただいた場合には、ほぼ近い場所で500石ということになってるんです。そのうち467石と6升3合というのが田んぼです。何でしょうね、この3合というのは（笑）。32石9斗3升7合というのがね、畑です。細かいでしょ。これを観音様の領地として拝領していますね。そのうちの、まあほとんどが千束村ですね。ここはご承知の通り、観音裏の方なんですけど、北側（地図の右側）にも西側（地図の上側）にも田地とか畑とか、あります。「惚れて通えば千里も一里、長い田んぼも一跨ぎ」なんて古い都々逸があります。それで吉原に通うわけでしょう。惚れた女性が吉原にいるということなのでしょう。こういう田地の中に町が出来てくるわけなんです。スズメなんか米をつつく暇がないくらい人が歩くようになる。

奥州へ続く街道 馬や人がぞろぞろと

浅草寺の下に「北馬道」がありますね。この馬道の辺りは街道沿いですね。日光街道、奥州街道、水戸街道、そういうところを通ってぞろぞろ江戸の方へと向かってくる。それで観音様をお参りして、そのまままっすぐ行って、今の浅草橋の辺り、見附っていった、ここをくぐると江戸の中心地に入りますよという、城門のようなものがあったんです。

東海道を京からずっと来て、江戸の中心地向かうところに赤坂見附があって、甲州街道をずっと来ると四谷見附があるように。三十六見附をくぐって江戸の中心地に来るということですね。浅草は江戸の中心地ではないけ

れど、それだけ人通りがすごいところなんです。だから馬道なんて名前が残ってるわけでしょう。この通り沿いには馬にちなんだ名前がいっぱいあるわけなんです。ずっと行けば馬喰町とか小伝馬町とか。いかに馬がいっぱい通っていたか、それだけこの町が騒々しいっていうね。年がら年中歩く人の足音が絶えなかったことがわかるわけですね。

それと同時に江戸の初期というのは、田んぼが多かったんで田原町という名前もあるわけだし。東仲町とか西仲町というのも広大な田んぼがあった真ん中にできた町だから、そういう名前なんです。だんだん人が住むようになり、町が出来ていったのが、地図を見ると大体わかるような気がします。

浅草橋から突き当り 仲見世まで見渡せた？

それでここ、浅草広小路といいます（図3）。今、浅草通りといっているところ。上野にも広小路ありますね。広小路っていうのは火除

け地のこと。何か震災だとか火災だとかあった時には、この通りに逃げなさいよという、防災のための広い通りなんです。

で、浅草広小路のところに材木町がある、茶屋町がある。材木町っていうのは昔、材木関係…といっても普通の木材とはちょっと違って、竹ですね。古い地図を見ると材木でなく「サイモク丁」と書いてあります。1丁2丁の丁。古くは小浜宿というふうに書いてあります。宿場なんだろうな。浜というのは、昔は隅田川も幅が広がったから浜という言い方をしたんでしょう。そこに竹屋さんが多かったんで材木町。もっと古くは竹町ともいいました。まだ橋がなかった隅田川を渡るための舟を、竹町の渡しとか、はなかつたの渡しとか呼んで。今と同じように隅田公園の周りには花がいっぱいあったんでしょうね。花川戸なんていうのも、桜がいっぱいあったからその名前が残るんですけど。

茶屋町というのは今でいう観光センターがあるところ（図4）。この庄屋さん

さんだったんで、名前が残っているそうです。それから隣、並木の通りっていうのは、松、桜、江戸桐とかの並木があったんです。慶安の頃までは草履、草鞋を売る店があるだけで、浅草見附の辺りから見ても並木が見通せて参道に向かう仲見世の辺りまで見えたそうです。「観音を見附で聞けば突き当り」なんていう川柳が残ってますけど。浅草見附で「観音様どこでしょう？」「突き当り」なんて言っ



図3：東都浅草絵図（文久元年尾張屋版切絵図より）



図4：かつて茶屋町があった場所にある浅草文化観光センター

たっているんです。ずいぶん気の長い話だなと思うけど、それくらい見渡せたということのようです。この並木には小さい横丁がいくつもあって、よくわかんない「犬の糞横丁」なんていうのもあるんですね。

大根が積んであるだけで「大根横丁」の名前が

これが駒形町、駒形堂（こまんどう）のあるところですからね。馬頭観音が祀られている駒形堂は、隅田川側に向いてたんですよ。だから船の上からでないとお堂の正面が見られないという状態。船の上から見ると、駒形堂っていうのは昔、真っ白だったんですね。白馬が駆けていたように見えたっていう説が一つ。もう一つは馬の絵を描いて奉納する絵馬。馬一頭奉納するのが大変だから、馬の絵を描いた木の札を奉納するようになった、その絵馬をかけるお堂で「こまかけ堂」といったという説もあるんです。それから駒形神という神様を祀ったとか、いろんなこと言われてるんです。まあ、白馬が駆けているように見えたというのが一番有力でしょう。

その次、駒形の隣は諏訪町になるのかな。諏訪町というのは江戸の初期に町として成り立ったといわれております。諏訪神社があったためにこの名前になったということです。ベニヤ横丁、エビ横丁…当時っていうのは何かあると、簡単に名前を付けちゃったんです。小さな路地に八百屋があって大根の樽がいくつも積んであったりするとそこを大根横丁って呼んだりね。だからベニヤ横丁というのも、住んでる人が紅屋勘左衛門とかそういう名前だったかもしれないし、エビヤっていうのも海老屋っていうのがあったんでしょう。明治

7年の頃、まだ子供だった夏目漱石が住んでいたのも諏訪町ですね。

へっつい横丁、胴切長屋、不思議な名前の多い田原町

それから次に三間町いっく。昔はこれだけ広いところに家が三軒しかなかったんですね。後にものすごい人口が増えるんですけど、昭和9年になると駒形1丁目から3丁目に分かれていくくらい広いところですね。今でいうと雷門1丁目、2丁目、寿4丁目、駒形1丁目というような分かれ方となっています。

それからその先へ行くと田原町になるわけで、千束からずっと田んぼがあったりして、けっこう広々としてるわけなんですけどね。だいたいその辺りに紙漉き、カミって髪じゃないですよ、ペーパーの方ですね。紙を漉く人が多かったので、紙漉町といわれたのが田原町の辺りです。

で、どんどんどんどん人が集まって町が出来てきて、田原町になっていくわけなんですけど、ここにへっつい横丁というのがあったんですね。へっついって何だかわかりますか？「亀」という字を書いてへっつい。この字、分かる方いますか？ かまどです。かまどのことをへっついっていいんです。落語にへっつい幽霊なんていうのが出てきます。田原町っていうのは不思議な名前がいっぱいあります。へっつい横丁があったり、胴切長屋、胴体を切る長屋ですよ。何があったかわからないけど、何やら不気味な名前があります。それから源水横丁。奥山の時に「松井源水独楽回し」というのをしゃべりましたけど、覚えていらっしゃるでしょうか。その松井源水がいたところです。

東西に見えないのに東仲町と西仲町

それから東仲町、西仲町というふうにあります。東と西じゃないじゃないですか。切絵図だと北と南になってる。

実際に地図で見るともう少し斜めになっていて、西仲町は西の方に寄ってるんですよ。だって東は、隅田川の方だからね。これ、後に北仲町っていうのも出てくるんですよ、時代によっては。仲町っていうのはまだまだ分散していくところなんです。

今度は花川戸の方へ行きますか（図1）。

えー、今戸という言い方がありますね。花川戸も戸、江戸の戸ですね。戸と付くのはみんな入り口ということなんです。川の入り口ということで川戸となるんですけど、花川戸という名前が地図に最初に載ったのは慶安の頃です。大体江戸の最初ですね。1600年代中頃、1648年から52年くらいですか、慶安。

それから花川戸の先に行ってもらって、山之宿なんていうのがあります。山之宿っていうのは町名の由来がはっきりしないんですが、浅草寺の参詣客が大変多かったんで、ここに宿泊する人が増えている。そうすると山っていうのは金龍山、お寺のことです。それが由来だとも言われています。この地区が花川戸1丁目、2丁目に併合されたんで、昭和23年頃になると残ったところは聖天町と合併することになって山之宿という町名は消えたんですけども、そんなところです。

中村勘九郎の思い出 平成中村座と待乳山聖天

次は何行か。せっかくだから聖天町行きですかね。聖天様というのは、中村勘九郎（五代目＝後の十八代目中村勘三郎）が大変信心している大聖歓喜天を安置しているところなんですけど。彼は最初に平成中村座をやった時にね、僕に「どういのが夢？」って言うから「浅草で芝居をやりたい」って言ったら、「あそう、僕もやりたい」って。彼の家のお寺っていうのはお西さま（鷲神社）の真ん前のお寺ですから、「ゆくゆく俺は死ぬば浅草に住むことになるんだから、浅草に芝居小屋みたいなのをやりたい」って。やりたいね、でもなかなか出来ない、どうしようってこと



図5：山谷堀広場には2015年に平成中村座発祥の地記念碑を設置。除幕式には子息の中村勘九郎、七之助が出席した

になって。じゃ、とりあえずそういう風情のあるものを作りたいって言って。

二人とももう、ベロベロに酔っぱらってたから。やろうやろうってことになっちゃって。言ったものの、やることになるとはあまり思ってたんじゃないかな、二人とも（笑）。でもやりたいという気持ちはそのままつながって。ある時に「どこなら出来る？

観音の裏で出来ない？」って言うから、「それは大変難しいんじゃない？」と。「すぐにでもやれるとしたら、隅田公園のところがいい」って僕が言ったんです。じゃ、そこでやらしてくれって言うんで、僕が台東区と掛け合ってたんですね。それであそこ（隅田公園山谷堀広場）ならということで、平成中村座の仮設劇場が出来たんです（図5）。

出来た時に、彼は目の前に聖天様がある、ここで何やろうかっていった時に、聖天町に寝泊まりしちゃっている乞食坊主が「法界坊」なんですね。これほど地元の芝居はない、それ面白いじゃないかってことで、第1回に「隅田川続法界坊」をやりました（2000年）。その日に「じゃあ、お参りしなきゃ」ってことでお参りしたら、なんと彼が大変信心している大聖歓喜天を祀ったところだったんで、この偶然にも彼は驚いてました。待乳山聖天のことね。（次号に続く）

（その後、2003年には当初希望していた浅草寺本堂裏広場での公演も実現しています）

ウチのイチオシ!

雷門三定

W 丼



お店の紹介は P.18

地図 P.14-C1

住 台東区浅草1-2-2 営 11:00~18:00

電 03-3841-3200 03-3841-3400 休 年中無休

<http://www.tempura-sansada.co.jp>



コロナの緊急事態宣言下で発案したテイクアウトメニューの一つがこのW丼。「コロナに打ち勝つ『We Win!』と海老2本入りをかけました。外食が難しい今だからこそ、ご自宅でお店の味を楽しんで頂ける様に期間限定で販売をしております」と店主の眞田賢太郎さん。電話注文で希望時間に合わせてお弁当を作る事も可能で、お土産は天ぷら一つからでもOK。店内での食事も「大人数のご家族様にも、安心してお楽しみ頂けるお席をご用意出来ます」とのこと。どうぞ、用途に合わせて使い分けを!

初小川

鰻重・上



お店の紹介は P.22

地図 P.17-B2

住 台東区雷門2-8-4 営 12:00~L.O.13:30 17:00~L.O.19:30 ※要予約

電 03-3844-2723 休 不定休
<http://asakusa.gr.jp/jp/?p=487>



明治40年創業の鰻の老舗、初小川。お客様に注文を受けてから鰻をさばき始め、江戸前風七輪の炭で焼くスタイルで江戸職人の伝統の味を受け継いでいます。「創業以来つぎ足しているタレはやや辛め。この方が、鰻本来の甘みを引き出すんです」と三代目女将の河合一恵さん。鰻といえば土用丑の日に代表されるように夏が旬のイメージが強いですが、「1年中安定して食べられるようになったのは養殖技術が発達してからで、本来の旬は秋から冬にかけてなんですよ」。まさにこれからが食べ時です!

TAKEYA

パリッと皮ネギ



お店の紹介は P.21

地図 P.16-B3

住 台東区浅草2-25-5 営 17:00~23:00

電 03-3841-6555 休 月

<http://asakusa.gr.jp/jp/?p=571>



店主の竹田務さんが「お酒が進むおつまみ」を念頭に考案したのがこのメニュー。ポイントは七味とネギのバランスを自分好みに調整すること。「おススメしたお客様が3回お代わりしていただいた時は、申し訳ないのと嬉しい気持ちで一杯になりました」というエピソードが、美味しさを表していますね。店のあるひさご通りは昔から、六区興行街から千束・吉原へと向かう人で賑わう商店街でした。「お子様からお年寄りまで、来て良かったと思われるお店を従業員一同心がけています」。大小予約承ります。

宗舟

大黒



お店の紹介は P.28

地図 P.17-B2

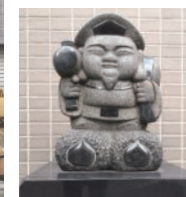
電 03-3845-0458

営 10:00~17:00

住 台東区寿 4-12-2

休 日祝

<http://so-syu.jp>



初代より100年以上にわたり、社寺建築に施す彫刻や仏像、置物などの木彫刻を専門に手がけてきた宗舟。店舗の角には、当店の大黒を見本にして作った御影石の大黒が置かれています。「そこで電話をしたら商談がまとまり、喜んで木彫の大黒をお求めくださったお客様もいます」と三代目の横谷光明さん。さすが商売繁盛の神様、ご利益が大きいようです。「木彫なので年月と共に移り行く色・風合いを愛でて下さい」。本店とギャラリーが、浅草の喧噪を蔵前方面に少し抜けて行ったところにあります。



浅草寺境内石碑ガイド 浅草寺境内の主だった句碑・顕彰碑

- 1 川口松太郎の句碑**
「生きるということは、むずかしき、夜寒かな」と刻む。
- 2 久保田万太郎の句碑**
「竹馬やいろはにほへとちりちに」と刻む。
- 3 市川猿翁の句碑**
「まだ身にそはず衣がえ」という三代目市川猿翁の句を刻む。
- 4 河竹黙阿弥顕彰碑**
歌舞伎狂言作者・河竹黙阿弥を顕彰して、台東区が建立した。
- 5 中村吉右衛門の句碑**
「女房も同じ氏子や除夜詣」と刻む。
- 6 並木五瓶の句碑**
「月花のたわみころや雪の竹」と刻む。
- 7 山東京伝机塚の碑**
江戸時代後期の戯作者・山東京伝の愛用した文机が埋められた上に建てられたとされる碑。
- 8 釘供養碑**
- 9 団十郎「暫」の像**
九代目市川團十郎の歌舞伎十八番「暫」の像。
- 10 映画弁士塚**
無声映画時代の名弁士たちを記念して建立。
- 11 半七塚の碑**
捕り物小説の生みの親である岡本綺堂を記念して建立。
- 12 三匠の句碑**
宗因・芭蕉・其角という三人の佳句を刻む。
- 13 正岡子規句碑**
「観音で雨に逢いけり花盛」と刻む。
- 14 芭蕉像と句碑**
「くわんをんのいらか見やりつ花の雲」の句を上部に、下部に松尾芭蕉の座像を刻む。
- 15 旧五重塔跡碑**
- 16 浅草寺の神木・いちよう**
源頼朝公が浅草寺参拝の折、挿した枝から発芽したと伝わる。昭和20年の東京大空襲で多くを焼失したものの、戦災をくぐり抜けた神木として大切にされている。
- 17 夫婦狢犬**
二体並び寄り添う一対の狢犬。「良縁」「恋愛成就」「夫婦和合」の願いを込めて祀っている。
- 18 三柱の石碑**
浅草神社に祀られている三神、檜前浜成・竹成、土師中知の名が刻まれている。
- 19 神木・槐の木**
浅草寺御本尊の聖観世音菩薩が、檜前浜成・竹成兄弟に綱得された際、安置されたのが槐の木の切株。以来、絶えることなく自生する縁の深い木である。



中央部会員店

- 1 神谷バー
- 2 雷門 三定
- 3 浅草うまいもん あづま
- 4 かとり
- 5 名代らーめん 与ろみ屋
- 6 釜めし 麻鳥
- 7 炭火会席 蔵
- 8 お好み焼き 一丁目
- 9 和風居酒屋 魚菜
- 10 天ぷら 葵丸進
- 11 三角
- 12 鉢の木
- 13 尾張屋
- 14 弁天山 美家古寿司
- 30 手焼きせんべい 和泉屋本店
- 31 手焼きせんべい 和泉屋観音通り店
- 32 浅草さびだんご あづま
- 33 早田カメラ
- 34 おもちゃのサワダ
- 35 ダンス・舞台衣装 東京モード
- 36 組紐 桐生堂
- 37 手焼きせんべい 和泉屋仲見世店
- 38 てぬぐい ふじ屋
- 39 あげまんじゅう 浅草九重
- 40 常盤堂雷おこし本舗
- 41 刃物 かね惣
- 42 舞扇 文扇堂雷門店
- 43 舞扇 文扇堂仲見世店
- 44 ミドリ屋
- 45 木村家本店
- 46 よのや櫛舗
- 47 よ兵衛
- 48 和装履物 浅草辻屋本店
- 49 浅草の保健室ネオ
- 50 江戸金銀工芸もり銀
- 66 村石電気工事

浅草北部エリア

●…食べる ●…買う ●…その他



北部会員店

- 15 和風れすとらん若
- 16 レストランにいど・だもおれ
- 17 料亭 都鳥
- 18 すし処 清司
- 51 祭礼用具 宮本卯之助商店本店
- 52 株式会社製菓川喜多

山谷堀



山谷堀はかつての吉原への道筋の一つ。柳橋で猪牙船を仕立てたお大尽は、隅田川を上って今戸橋から山谷堀を抜けて吉原へ通った。現在、堀は埋め立てられたが、堀端の桜は当時の名残を残し、今日も桜の名所として知られている。

浅草富士浅間神社



毎年7月1日の富士の山開きで有名な浅間神社(せんげんじんじゃ)は、地元の人から「お富士さん」の愛称で親しまれている。江戸時代に各地に広がった富士浅間神社の信仰だが、浅草富士浅間神社は静岡県富士市から元禄年間に分社したもの。本殿外観は平成9年から10年の改修工事によって漆喰塗りが施されているが、内部には明治11年に建築された土蔵造りが残されている。毎年5月最終土日と6月最終土日に植木市が開かれ、浅草の年中行事として賑わいを見せる。

待乳山聖天



待乳山聖天(まつちやましようてん)は、正しくは待乳山本龍院という。境内のいたるところに大根と巾着を組み合わせた比翼紋があるが、これは健康増進などを祈願する聖天信仰の現れとされる。毎年恒例の大根まつりには多くの信仰者が訪れる。昔は待乳山の手前に隅田川が流れ、東都随一を誇る眺望の名所として知られた。現在はその眺めは見られないが、江戸末期に作られた長さ25メートルに及ぶ築地塀などが往時をしのばせる。



西部会員店

- 13 尾張屋
- 19 常寿司
- 20 天麩羅 中清
- 21 Bistro Kinukawa
- 22 居酒屋 TAKEYA
- 23 すき焼 浅草今半
- 24 どぜう飯田屋
- 53 デイジー
- 54 渡辺眼鏡商店
- 55 演劇・舞踊小道具 すずや
- 56 足袋・祭用品 めうがや
- 57 祭礼用具 宮本卯之助商店西浅草店
- 58 ヤマダの家具
- 59 今昔きもの龍巳(胡蝶)
- 60 まつもと履物店
- 67 浅草ビューホテル

江戸たいとう伝統工芸館



ひさご通り内にある洒落たたずまいの江戸たいとう伝統工芸館は、台東区の手仕事に生きる職人さんの技術・技法を紹介する文化施設。実演のスケジュールは、ホームページをご覧ください。
<https://craft.city.taito.lg.jp>

久保田万太郎生誕の地



久保田万太郎は、明治22年11月7日にこの地に生まれ、大正3年慶応義塾大学文科を卒業するまでの26年間在住。昭和38年5月6日に永眠するまで、明治・大正・昭和の三代に亘り、下町の義理と人情を描いた小説・戯曲等を発表し、文学・演劇界に多大な功績を残した。



南部会員店

- 25 シーフードレストラン 月見草
- 26 ロシア料理 マノス
- 27 うなぎ 初小川
- 28 茶寮 一松
- 29 三代目魚熊
- 61 和菓子 龍昇亭 西むら
- 62 市川とうふ店
- 63 木彫 宗舟
- 64 書道用品 宝研堂
- 65 ゴルフ グリーンジャケット

駒形堂



駒形堂(こまんどう)は、浅草寺のご本尊が隅田川から示現され、上陸された地に建てられたお堂で、浅草寺の発祥の地ともいえる。現在は、ご本尊として馬頭観音が祀られている。

岡崎屋勘六(勘亭流元祖)の墓



西浅草一丁目にある清光寺の境内に、勘亭流の元祖といわれる岡崎屋勘六(文化2年2月3日に59歳で没)の墓がある。勘六は、延享3年に江戸に生まれ、日本橋で書道塾を開いていた。号を勘亭といひ、安永8年に中村座新春狂言の看板を書いたことが評判を呼び、芝居文字として勘亭の書いた文字(勘亭流)が主流となったという。

はなし塚



田原町駅近くの本法寺境内にある落語ゆかりの珍しい石碑。大戦中に各種芸能団体が演題を自粛した際、落語界でも演題の花柳界・酒・妾などに関する落語53種を禁演落語とした。はなし塚は、中に含まれた名作と先輩の霊を弔うために建立され、この塚の下には禁演落語の台本が納められた。戦後の昭和21年9月には、塚の前で禁演落語復活祭が行われた。

浅草槐の会・会員店紹介

地図内番号 店名 通り名

1 神谷バー (雷門通り)

地図 P.14・C1

地図掲載ページ

ビアホール、レストラン、割烹

分類

1 神谷バー (雷門通り)



明治13年創業、明治45年「神谷バー」と屋号を改めた日本で最初のバー。名物デンキブランとともに皆様にご愛顧頂いております。お一人様には1階が、グループのお客様には2階レストラン、3階割烹がお勧めです。

電 03-3841-5400
住 台東区浅草1-1-1
営 11:30~22:00 (L.O 21:30)
休 火曜日

<http://www.kamiya-bar.com/>



2 雷門 三定 (雷門通り)



創業以来江戸前天ぶらの味を守り百六十余年。胡麻のきいた黒つまい天ぶらですが、あと味が軽いのが身上です。店も仲見世の入口にあり、ご散策に大変便利。季節ごとに変わる旬の天ぶらに江戸の粋を御堪能下さい。

電 03-3841-3200
住 台東区浅草1-2-2
営 11:30~22:00 (L.O 21:30)
休 無休

<http://www.tempura-sansada.co.jp>



3 浅草うまいもん あづま (新仲見世通り)



なつかしい味の下町料理(和食、江戸前寿司、オムライス、自家製甘味…)を是非お楽しみ下さい。二階の掘りごたつ席での御宴会も大好評です。

電 03-3841-0190
住 台東区浅草1-32-1
営 平日11:00~21:00
土日祝10:30~21:00
休 無休

<http://aduma.tokyo>



4 かとり (新仲見世通り)



トレードマークのダイナミックな滝を眺めつつ2階へ上がると、和モダンな空間。みつ豆や白玉、おしろこ、パフェなど、種類豊富な甘味をご用意しております。浅草散策のひと時をお過ごしください。

電 03-3841-7400
住 台東区浅草1-1-11 (2F)
営 11:00~20:00 (L.O 19:30)
休 木曜日

<http://asakusa-ryoin.jp/katori/>



5 名代らーめん 与ろゐ屋 (伝法院通り)



醤油らーめん発祥の地、浅草昭和30年代に店主がここで毎日食べていた日本蕎麦屋のらーめんを再現しました。煮干・かつを節のかおり漂う昔ながらの和風らーめんを下町の風情と共に楽しんで下さい。

電 03-3845-4618
住 台東区浅草1-36-7
営 11:00~20:30
休 無休

<http://www.yoroiaie.jp>



6 麻鳥 (公会堂横通り)



新潟県下田町より直送の100%コシヒカリを新鮮な素材と共に一釜づつ心を込めて炊き上げます。地鶏串焼も福島伊達鶏を紀州備長炭で丁寧に焼き上げます。大切な方々のおもてなしにどうぞごゆっくり御賞味下さい。

電 03-3844-8527
住 台東区浅草1-31-2
営 11:00~22:00 (L.O 21:00)
休 無休
<http://asa-kusa.jp/asadori>



7 蔵 (公会堂横通り)



旬の素材を使ったお勧めの炭火焼会席コース、牛肉は和牛の特選焼物コース、アラカルトでは三陸産の鮑や伊勢海老などもございます。季節によって変わる焼魚も絶品です。焼物は全て炭火焼きで召し上がって頂きます。

電 03-3847-1129
住 台東区浅草1-30-10
営 11:30~23:00 (L.O 21:00)
休 無休
<http://asa-kusa.jp/kura>



8 一丁目 (雷門柳小路)



新しい味の発見です!お好焼きをわさび醤油・ボン酢・抹茶塩などでお召し上がり下さい。もちろんソースも自家製ですから食べ比べてみては? 当店の材料は全て純国産品です。

電 03-3845-7566
住 台東区浅草1-21-2
営 火水木12:00~15:00/17:00~22:00
金17:00~22:00
土日祝12:00~21:00
休 月曜ただし祭日の場合は火曜日
<http://www.asakusa.gr.jp/shop/icchome.html>



9 魚菜 (雷門柳小路)



魚菜ではテレビでも紹介された三陸産のアワビの肝ソース焼きが大人気です。一品およびコース料理もございます。大小のご予約を承っております。今話題の焼酎、黒糖・芋・麦・米も取り揃えております。

電 03-3842-1919
住 台東区浅草1-17-9
営 平日17:00~23:30
日祝日12:00~22:30
休 無休
<http://www.asakusa.gr.jp/shop/uosai.html>



10 葵丸進 (雷門通り)



「旬の肴に天麩羅でちよいと一杯」季節料理に天井・天麩羅、お椅子席・お座敷席・個室席。お好みのスタイルでおくつろぎください。浅草に行きつけの天麩羅屋はいかがですか。

電 03-3841-0110
住 台東区浅草1-4-4
営 11:00~21:00 (L.O 20:00)
休 第2・4月曜日
(祝日の場合は翌日)
<http://www.aoi-marushin.co.jp/>



11 三角 (浅草中央通り)



明治35年(1902)の創業以来、日本料理店として気取らず下町の味を守りたいと努力しております。ふぐさし、ふぐちり、煮凍り、唐揚げ、ひれ酒、白子、特に11月頃からの白子焼、白子刺身は大人気の逸品です。是非一度ご賞味下さい。

電 03-3841-7650
住 台東区浅草1-20-7
営 13:00~22:00 (L.O 21:00)
休 水曜日、正月、お盆は不定休あり
<http://www.asakusa-fugu.com/sankaku.htm>



12 鉢の木 (公会堂東通り)

甘味・喫茶 地図 P.14・C2



浅草寺に詣で、心躍る浅草の賑わいを巡る。熱気に煽られし夏の休息。あんみつ、おしろい、いそべ巻き…。甘味を口にホッとひと息。夏のかき氷も人気です。くつろぎの和の空間にお立ち寄りください。

電 03-3843-6755
住 台東区浅草1-34-7
営 11:30~18:00
休 水曜日



<http://www.asakusa.gr.jp/shop/hachinoki.html>

13 尾張屋

日本そば 地図 P.14・C1, P.16・C1



幕末の創業以来、地元浅草の方々、観音様参詣の皆さまに広く愛されてきた老舗です。そばは、信州を中心に厳選した国産の一番粉、本かつお節のつゆ、胡麻油で揚げた天ぷらと、三位一体の美味しさです。

電 03-3845-4500(本店)
03-3841-8780(支店)
住 台東区浅草1-7-1(本店)
台東区浅草1-1-3(支店)
営 11:30~20:30 休 金曜日(本店)、水曜日(支店)
http://www.asakusa.gr.jp/shop/owariya



14 弁天山 美家古寿司

寿司屋 地図 P.14・C3



創業慶応2年(1866年)。酢飯、仕事を施した寿司ダネ、新鮮な山葵と煮きり醤油、この4つのバランスによって寿司の美味しさを最大限に引き出す。江戸前すしの本来の仕事、にぎり、ツメ、ツケ、酢メ、昆布メなど、古典的技法を今もなお頑固に守り続けております。

電 03-3844-0034
住 台東区浅草2-1-16
営 月~土 11:30~14:30(LO 14:00)、
17:00~21:00(LO 20:00)
日祝 11:30~18:30(LO 18:00)
休 月、第3日曜日 <http://benten-yama-miyakosushi.com>



15 和風れすとらん若 (浅草猿若町会事務所側)

洋食レストラン 地図 P.15



江戸の名残の和風作りのお店で、洋食と色々なお酒をお楽しみください。特製レカッサンドと、のりカツロールはお子様からお年寄りまで喜んで頂けるお土産に大人気です。(不定休の為、必ずお電話で御予約下さい。)

電 03-3876-2500
住 台東区浅草6-20-2
営 17:00~ *要予約
休 不定休
<http://www.asakusa.gr.jp/shop/waka.html>



16 にいど・だもおれ (浅草猿若町市村座跡)

レストラン 地図 P.15



昔の市村座の跡にあるお店です。夜は新鮮な魚介類のお料理で(活タラバガニ等)、お仲間だけの空間をお楽しみ下さい。

電 03-3874-7561
住 台東区浅草6-18-13
小竹猿若町レジデンス1階
ランチ11:00~14:00、ディナー
1日1組予約のみ17:00~22:00
休 日祝、第2・3土曜日
<http://www.asakusa.gr.jp/shop/nidodamore.html>



17 都鳥 (浅草観音裏)

料亭 地図 P.15



江戸開府四百年、だからこそ江戸の昔を体験してみませんか。花柳界の楽しさをもっと知って頂きたいと、江戸の遊びのコースを考えました。お客様には和服でお越し頂くなど、一緒に御趣向を楽しみませんか。

電 03-3874-2175
住 台東区浅草3-23-10
営 18:00~ 要予約
休 土日祝日
<http://asakusa-miyakodori.com>



18 すし処 清司 (浅草観音裏)

寿司 地図 P.15



すしは日本の食文化。にぎる人の心がお客様に通ってこそ本物だと思います。特に江戸前の小肌、蛤、鰯は逸品です。鰯はもちろん本まぐろです。一味も二味も違うお寿司を是非ご賞味くださいませ。

電 03-3872-7275
住 台東区浅草3-22-12
営 月~土 17:00~25:00
祝日 18:00~24:00
休 日曜日
<http://www.asakusa.gr.jp/shop/seiji.html>



19 常寿司 (たぬき通り)

寿司 地図 P.16・C1



屋台の鮓屋が提供していた昔懐かしい鮓。その味を、今も変わらず作り続けています。肩肘を張らずに、気軽に江戸前寿司を楽しみたい方、お褒め致します。是非お越し下さい。

電 03-3844-9955
住 台東区浅草1-15-7
営 11:30~21:00 休憩なし
休 月曜日
<http://www.asakusa.gr.jp/shop/tsuneshushi>



20 中清 (オレンジ通り)

天ぷら会席 地図 P.16・C2



数寄屋造りの離れ座敷で昔から変らぬ味の江戸前天麩羅をごゆっくりご賞味下さいませ。

電 03-3841-4015
住 台東区浅草1-39-13
営 平日11:30~14:00、17:00~
22:00 土日祝11:30~20:00
休 火曜日、第2、第4水曜日
<http://www.nakasei.biz/>



21 Bistro Kinukawa

フランス料理 地図 P.16・B1



新鮮な魚料理と契約農家直送の有機野菜をお楽しみいただけるフレンチのお店です。ワインはもちろん、焼酎や日本酒もごございます。下町ならではの居心地の良い空間で、素材にこだわった「おさかなフレンチ」をご堪能下さい。

電 03-5828-3313
住 台東区西浅草2-16-4
営 平日12:00~15:00、
17:00~22:00
休 火曜日

22 TAKEYA (浅草ひさご通り)

居酒屋 地図 P.16・B3



昔からひさご通りは六区興行街から千束吉原に向かう人で賑わう商店街でした。当店はお客様からお年寄りまで、気楽に入れて来て良かったと思われるお店を、従業員一同心がけております。大小予約承ります。

電 03-3841-6555
住 台東区浅草2-25-5
営 平日12:00~23:00
土日12:30~14:00、
17:00~23:00
休 月曜日 <http://www.asakusa.gr.jp/shop/takeya>



23 浅草今半 (国際通り)

すき焼、しゃぶしゃぶ、日本料理 地図 P.16・B2



厳選された黒毛和牛と秘伝の割り下で、焼くように煮るすき焼きが浅草今半流。ランチタイムサービスの「明治すき焼井」と「ステーキ井」は、浅草の隠れ銘井とも…。納得の味をお届けいたします。

電 03-3841-1114
住 台東区西浅草3-1-12
営 11:30~21:30
休 年中無休
<http://www.asakusaimahan.co.jp/>



24 どぜう飯田屋 (合羽橋本通り)

どぜう料理 地図 P.16-B2



磨き込まれた簾敷きに
胡坐をかいて
どぜう鍋
一刻文豪気分です

電 03-3843-0881
住 台東区西浅草3-3-2
営 11:30~21:30 (L.O 21:00)
休 水曜日、祝物日は前後
振替



<http://www.asakusa.gr.jp/shop/iidaya.html>

25 月見草 (浅草並木通り)

シーフードレストラン 地図 P.17-C2



魚介類を中心とした旬の食材を取り
入れたシーフードレストラン。一番の人
気を誇るのは鮑のステーキ、水槽の
中で生きているものをすぐに調理し丸
ごと一つを鮑の肝で作った自慢のオリ
ジナルソースをかけてどうぞ。

電 03-3841-8949
住 台東区雷門2-11-8
営 12:00~15:00
17:00~22:00 (L.O 21:00)
休 無休



<http://asa-kusa.jp/tsukimiso>

26 マノス

ロシア風レストラン 地図 P.17-B2



「ロール・キャベツ?いや!キャベツ・
ロールです」。創業以来、作り続けて
35年。元祖キャベツ・ロールといえば
浅草マノス。料理は良い素材と美味
しいものを作るという気持ち!今一度、
おた召しあ~れ~!

電 03-3843-8286
住 台東区雷門2-17-4
営 11:30~22:30 (L.O 21:00)
ただし平日15:00~16:30準備中
休 火曜日



<http://www.asakusa.gr.jp/shop/manos>

27 初小川 (雷門仲通り)

鰻蒲焼き 地図 P.17-B2



明治40年の創業以来継ぎ足し使っ
ている辛口のタレを使った鰻は、注文
を受けてからさばき、蒸してから焼く。
江戸前風七輪の炭で焼いた鰻は
ムダな脂が落ち、身もふっくらわから
か上品な味わいです。

電 03-3844-2723
住 台東区雷門2-8-4
営 平日12:00~14:00、17:00~
20:00 日祝17:00~20:00
休 不定休



<http://www.asakusa.gr.jp/shop/hatsuogawa.html>

28 茶寮 一松 (万太郎横町)

会席料理 地図 P.17-B2



ご宴会に、季節の色で盛り付けされ
た茶寮一松での会席料理はいかが
でしょうか。お昼のミニ会席や料亭
ウエディングプランなどもご用意し
ております。しばし浮世を離れ、浅草なら
ではの粋なひと時をお楽しみ下さい。

電 03-3841-0333
住 台東区雷門1-15-1
営 11:00~22:30
休 月曜日・お盆・12月は
不定休・年末年始



<http://www.ichimatsu.co.jp>

29 三代目魚熊

ふぐ・魚料理 地図 P.17-B1



魚屋から始まり、皆様に支えられて
創業77年。1日も欠かさず築地で魚を
手に取り仕入れしています。魚のこと
では妥協致しません。お客様の「旨い」
の一言のため、感謝を込めて笑顔
あふれる店作りに励みます。

電 03-3851-5914
住 台東区蔵前3-20-5
営 17:00~22:30
休 日曜・祭日



<http://uokuma.com>

30 和泉屋本店 (観音通り)

あられ、手焼せんべい、おかき 地図 P.14-C1



良質の食材(もち米・うるち米・醤油・
天然塩等)を使った、あられ、手焼き
せんべい、おかきを製造しています。
缶・和紙箱・竹籠の御進物セットが
人気です。

電 03-3841-5501
住 台東区浅草1-1-4
営 10:30~19:30
休 木曜日



<http://www.asakusa.gr.jp/shop/izumiya.html>

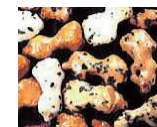
31 和泉屋観音通り店 (観音通り)

あられ、手焼せんべい、おかき 地図 P.14-C1



このところ、堅焼の人气が復活して
います。天日干しの「厚焼せんべい」。
もち米の「風神雷神」。堅焼の定番
げんこつ等、リピーターのお客様が
増えています。

電 03-3841-8385
住 台東区浅草1-1-6
営 10:30~19:30
休 木曜日



<http://www.asakusa.gr.jp/shop/izumiya.html>

32 浅草きびだんご あづま (仲見世通り)

きびだんご 地図 P.14-B1



江戸時代、観音様の参道・仲見世で
繁昌した門前のきびだんごを再現し
ております。粋なにいさんと下町娘た
ちのきびだんご作りの実演もご覧さ
い。夏の冷抹茶や冬の甘酒も大評
判です。

電 03-3843-0190
住 台東区浅草1-18-1
営 9:00~19:00
休 無休



<http://www.asakusa.gr.jp/shop/kibidango.html>

33 早田カメラ (伝法院通り)

カメラ 地図 P.14-C3



浅草で創業68年になるクラシック
カメラ店です。世界中のフィルムカメラ
を取り扱っており、博物館にあるよ
うなカメラも置いています。仕入れた商
品はすべて自店で整備して販売を
行っています。

電 03-3841-5824
住 台東区浅草2-1-3
営 11:00~19:30
休 木曜日



<http://www.photobazar.jp>

34 おもちゃのサワダ (新仲見世通り)

玩具一般 地図 P.14-C2



昔ながらのオモチャヤです。ビー玉・
面子・ペーゴマから、今話題のオモ
チャまで、品数豊富に取り揃えており
ます。お値段もお勉強させて頂いて
おります。皆様の是非の御来店を
お待ちしております。

電 03-3842-7367
住 台東区浅草1-33-3
営 9:30~19:00
休 水曜日



<http://www.asakusa.gr.jp/shop/omocha.html>

35 東京モード (新仲見世通り)

ダンス・舞台衣装 地図 P.14-B2



婦人服・子供服から舞台衣装・ダンス
ウェアまで、最新デザインの商品を
サイズ豊富に取り揃えております。
お値段はサイフに優しい下町価格。
普段のオシャレに、ダンスやカラオケ
の発表会に、ぜひご利用下さい!

電 03-3841-3915
住 台東区浅草1-32-2
営 10:00~18:30
休 無休



<http://www.asakusa.gr.jp/shop/tokyomode.html>

36 桐生堂 (浅草メトロ通り)

組紐、和雑貨 地図 P.14・B2



当店は、商品も手作りですが内装も手作りで、材木を切ったりニスを塗ったり、気ままに楽しんでいます。竹を買って店の外側に取り付けました。下に風知草を置いて、なかなか良く出来たと思っています。

電 03-3847-2680
住 台東区浅草1-32-12
営 10:30~19:00
休 無休

<http://www.asakusa.gr.jp/shop/kiryudo.html>



37 和泉屋仲見世店 (仲見世通り)

あられ、手焼せんべい、おかき 地図 P.14・B2



約100種類のあられ、手焼せんべい、おかきを販売しています。江戸情緒あふれるパッケージ(江戸童(わらべ)絵・日本人形・雷門)の土土産が人気です。

電 03-3844-2687
住 台東区浅草1-37-1
営 10:30~19:30
休 木曜日

<http://www.asakusa.gr.jp/shop/izumiya.html>



38 ふじ屋 (弁天山側)

てぬぐい 地図 P.14・B3



四季の草花、歌舞伎、歳時記などのオリジナル染絵でてぬぐいを額装したインテリアや、江戸時代より「そめぎれ染布」として暮らしの中で使われてきた江戸小紋などで、てぬぐいを生かした粋な暮らしをお楽しみ下さい。

電 03-3841-2283
住 台東区浅草2-2-15
営 10:00~18:00
休 木曜日

<http://www.asakusa.gr.jp/shop/fujiya.html>



39 浅草九重 (仲見世通り)

あげまんじゅう 地図 P.14・B3



「浅草寺から三軒目」浅草九重はあげまんじゅうの実演販売のお店です。国産大豆を原材料とし、最高級のごま油を使用しています。日持ちのするお土産用のラインナップも充実し、国内はもちろんのこと、海外のお客様にも人気です。

電 03-3841-9386
住 台東区浅草2-3-1
営 9:30~19:00頃
休 無休

<https://agemanju.jp>



40 常盤堂雷おこし本舗 (雷門通り)

雷おこしを主とする菓子 地図 P.14・B1



今も変わらぬ下町ならではの粋や人情にふれあう事の出来る浅草において、下町の心・伝統の味を守り続ける常盤堂。江戸銘菓「雷おこし」家を「おこし」名を「起こす」という縁起の良さから長い間、浅草のお土産として親しまれております。

電 03-3841-5656
住 台東区浅草1-3-2
営 9:00~21:00
休 無休

<http://www.tokiwado.tokyo>



41 かね惣 (雷門柳小路)

刃物 地図 P.14・B1



プロ仕様から家庭用まで各種取り揃えております。創業(明治6年)以来、伝承されてきた古式鍛錬秘法の切れ味を一度お試し下さい。また、ご婚礼祝い、仏事のお返しなどにもご利用ください。

電 03-3844-1379
住 台東区浅草1-18-12
営 11:00~19:00
休 不定休

<http://www.kanesoh.com>



42 文扇堂雷門店 (雷門柳小路)

舞扇、うちわ等 地図 P.14・B1



扇専門店として当代で四代。各流派の舞踊家、歌舞伎の役者さん、芸者さんや落語家さんなど多種多彩な方にお越し頂いています。普通の扇や木版刷りの祝儀袋、うちわもあるお店です。気楽にお立ち寄りください。

電 03-3841-0088
住 台東区浅草1-20-2
営 10:30~18:00
休 毎月20日過ぎの月曜日

<http://www.asakusa.gr.jp/shop/bunsendo.html>



43 文扇堂仲見世店 (仲見世通り)

舞扇、うちわ等 地図 P.14・B2



雷門店同様に、古典芸能のプロの方をはじめ多くのお客様に御愛顧頂いております。普通の扇や木版刷りの祝儀袋、うちわなども御用意しておりますので気楽にお立ち寄りください。

電 03-3844-9711
住 台東区浅草1-30-1
営 10:30~18:00
休 毎月20日過ぎの月曜日

<http://www.asakusa.gr.jp/shop/bunsendo.html>



44 ミドリ屋 (公会堂横通り)

舞踊衣装 地図 P.14・B2



舞踊衣装のことなら当店にお任せ下さい。豊富な品揃えと驚きの低価格で、きっとご希望の品が見つかります。その他、お稽古着・反物も多数取り揃えておりますので、是非一度お立ち寄り下さい。

電 03-3843-1441
住 台東区浅草1-30-11
営 10:30~18:00
休 毎月第2・4火曜日

<http://www.asakusa.gr.jp/shop/midoriya.html>



45 木村家本店

人形焼 地図 P.14・A2



人形焼の木村家本店です。仲見世通り奥の浅草寺様に一番近い角で営業しております。当店の人形焼の形は五重塔、雷様、提灯、鳩の4種で浅草を表現しております。どうぞ昔から変わらない木村家本店の人形焼をご賞味ください。

電 03-3841-7055
住 台東区浅草2-3-1
営 9:00~19:00頃
休 不定休

<http://www.kimura-ya.co.jp/>



46 よのや櫛舗 (伝法院通り)

黄楊櫛、黄楊製品 地図 P.14・A2



伝法院通りにあり浅草寺、六区方面から大変に便利です。小店舗ですがつけ櫛の種類も豊富で、また櫛やかんざしの使い方も丁寧にアドバイスさせて頂いております。是非一度御来店下さい。

電 03-3844-1755
住 台東区浅草1-37-10
営 10:30~18:00
休 水曜日

<http://www.asakusa.gr.jp/shop/yonoya.html>



47 よ兵衛 (仲見世通り裏)

揚餅・お団子 地図 P.14・B3



サクッと軽くお味はしっかり。昔懐かしい母の味「揚餅」を食べていただくため、無駄なものは一切加えず、素朴で香ばしい味を再現しています。お味は生醤油やしお、カレー、生醤油唐辛子など6種類。是非ご賞味あれ!

電 03-3841-0868
住 台東区浅草2-2-7
営 9:00~18:00
休 不定休

<http://www.agemochi-yohei.com/>



48 浅草辻屋本店 (伝法院通り) 和装履物 地図 P.14・B2



浅草花柳界をはじめ、和装にうるさいお客様に愛され育てられて百年目。長く履いても痛くならず疲れない、熟達した職人の技が生きた鼻緒のすげ。「浅草好み」の履物を豊富な品数で取り揃えております。

電 03-3844-1321
住 台東区浅草1-36-8
営 10:00~19:00
休 無休
<http://www.getaya.jp/>



49 浅草の保健室ネオ (馬道通り) クスリ 地図 P.14・C3



浅草で創業63年のくすり屋です。一般薬・健康食品・ヒノキ肌粧品など取扱っております。なんでもお気軽にご相談くださいませ。

電 03-3841-5329
住 台東区浅草2-1-15
営 9:30~19:00
土9:30~18:00
休 日曜日
<http://www.neo-ph.com>



50 江戸金銀工芸もり銀 (オレンジ通り) 銀製品全般 地図 P.14・A2



日本の金銀工芸は西暦600年代より始まり、江戸時代に入って花開きました。現在もその時代からの手法を引き継いで、銀の食器類・アクセサリーetcを自家製作販売をしております。日本の伝統文化を表す品々と自負しております。

電 03-3844-8821
住 台東区浅草1-29-6
営 10:30~18:30
休 無休
<http://www.asakusamorigin.com>



51 宮本卯之助商店本店 (吉野通り) 太鼓・神輿、祭礼用具 地図 P.15



文久元年(1861年)創業、伝統的な製法を頑なに守り続け、その華麗さ、堅牢さには定評があります。また、邦楽教室を行う「宮本スタジオ」や世界の太鼓資料館「太鼓館」など、様々な活動にも取り組んでいます。

電 03-3873-4155
住 台東区浅草6-1-15
営 9:00~17:00
休 土日祝日
<http://www.miyamoto-unosuke.co.jp>



52 株式会社製菓川喜多 菓子製造、販売 地図 P.15



弊社は戦後まもなく川喜多忠之助により、おこし製造から始まりました。駅、高速SA等でおなじみの「東京サンド」等の問屋様への卸売り販売、老舗様のOEM製造を中心としてきましたが、現在では「浅草の菓子屋」にならうと、「浅草川喜多」の名前の洋菓子の製造・販売に重点を置いております。工場直販です。

電 03-3875-0013
住 台東区浅草5-56-4
営 9:00~17:00
休 日・祝日(土曜日不定休)
<http://www.s-kawakita.co.jp>

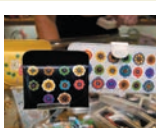


53 デイジー (新仲見世通り) バッグ、小物 地図 P.16・C1



魅力的な貴女をより輝かせるバックと小物。デイジーはそんな貴女にピッタリ!カラフルな品揃えで心までウキウキ間違いナシです。オリジナル品を中心としたオサイフや札入れも個性的な貴女にピッタリ特注・別注・修理も大歓迎です。

電 03-3847-8118(FAX共通)
住 台東区浅草1-22-10
営 10:00~19:30
休 不定休 2ヶ月に1回ほど
<http://www.asakusa.gr.jp/shop/deiji.html>



54 渡辺眼鏡商店 (ためぎ通り) めがね 地図 P.16・C1



創業明治20年の眼鏡専門店です。オリジナルフレーム、アンティークフレーム、眼鏡ケース、眼鏡チェーンなど他所には無いものをお探しの方はちょっと覗いてみて下さい。眼鏡修理も承っております。

電 03-3841-7466
住 台東区浅草1-16-7
営 09:30~19:00
休 火曜日(祝日の場合は営業)
<http://www.watanabemegane.com>



55 すずや (西参道商店街) 演劇、舞踊小道具 地図 P.16・C2



時代劇や踊りに興味のある方、いろいろな小道具が並んでいます。近くにお出かけの時にはお気軽にお立ち寄り下さい。

電 03-3844-3798
住 台東区浅草2-7-13
営 10:00~18:00
休 火曜日
<http://www.asakusasuzuya.co.jp/>



56 めうがや (言問通り) 足袋、祭用品 地図 P.16・C3



“めうがや”と書いて「みようがや」。旧仮名で“どぜう”を「どじょう」と読むのと同じです。夏に麻足袋、柄足袋も多種揃っています。お祭には、オリジナルの祭用品で粋にキメて下さい。

電 03-3841-6440
住 台東区浅草2-27-12
営 10:00~19:00
休 水曜日
<http://www.asakusa.gr.jp/shop/myogaya>



57 宮本卯之助商店西浅草店 (国際通り) 太鼓・神輿、祭礼用具 地図 P.16・B1



文久元年(1861年)創業、伝統的な製法を頑なに守り続け、その華麗さ、堅牢さには定評があります。また、邦楽教室を行う「宮本スタジオ」や世界の太鼓資料館「太鼓館」など、様々な活動にも取り組んでいます。

電 03-3844-2141
住 台東区西浅草2-1-1
営 9:00~18:00
休 年中無休
<http://www.miyamoto-unosuke.co.jp/>



58 ヤマダの家具 (合羽橋通り) 家具・内装工事・リフォーム 地図 P.16・A2



飲食店のイス・テーブルの製造販売と内装工事を承っております。最近ではイスの張替、リフォーム工事等、大変好評です。お見積りはもちろん無料ですので、大小にかかわらずどうぞご相談ください。

電 03-3843-6656
住 台東区松が谷3-2-12
営 9:00~17:30
休 日曜・祝日
<http://www.asakusa.gr.jp/shop/yamada>



59 今昔きもの 龍巳(胡蝶) (オレンジ通り・伝法院通り角) 着物 地図 P.16・C2



胡蝶では、大正・昭和のアンティーク着物から、最近のリサイクル着物・帯などを格安にて販売しております。また、本店・龍巳にて、日本舞踊の貸衣装・かつらのレンタルも承ります。

電 03-3843-7606
住 台東区浅草1-39-11
営 10:30~19:00
休 無休
<http://www.asakusa.gr.jp/shop/kocho.html>



60 まつもと履物店 (浅草ひさご通り)

和装履物専門店 地図 P.16 - B3



自店で仕上げた草履、下駄、雪駄等を商う和装履物専門店。1899(明治32)年、浅草千束町二丁目にて創業。代々継承される職人技術と徹底した品質管理を経た、(株)まつもと履物店の和装履物をぜひ一度、お試しください。

電 03-3841-2461
住 台東区浅草2-22-11
営 11:00~18:30
休 火曜日



<http://www.wasou-hakimono.com/>

61 龍昇亭西むら (雷門通り)

和菓子司 地図 P.17 - C2



看板の栗むし羊かんはもちろん、大桃山金龍、東京かすていら、昇り鮎など浅草の催事と、季節に因んだ品々は大人気です。創業は江戸中期と古く、安藤広重の「雷門前図」にもお店が描かれています。

電 03-3841-0665
住 台東区雷門2-18-11
営 09:00~20:00
休 不定休



<http://www.asakusa.gr.jp/shop/nishimura.html>

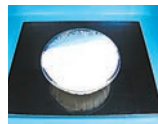
62 市川とうふ店 (万太郎横町)

豆腐 地図 P.17 - B2



浅草の老舗飲食店への卸を中心に、国産大豆にこだわり手作り豆腐一筋三代にわたるお店です。店頭での販売ではなくに“おぼろ豆腐”が人気です。水にまったくくさらない、大豆風味豊かな味を一度御賞味下さい。

電 03-3841-1357
住 台東区雷門1-14-3
営 5:00~19:00
13:00~16:00は休憩
休 水曜日



<http://www.asakusa.gr.jp/shop/tofu.html>

63 宗舟 (浅草消防署手前右入る)

木彫刻 地図 P.17 - B2



初代より百年以上にわたり社寺、仏像、置物などの木彫刻を専門に手掛けてきました。一階はギャラリーで、大黒様や聖観音菩薩など仏彫刻、根付け、小盆なども展示しております。お気軽にお立ち寄り下さい。

電 03-3845-0458
住 台東区寿4-12-2
営 10:00~17:00
休 日曜日・祝日



<http://so-syu.jp>

64 宝研堂 (江戸通り駒形どぜう裏)

書道用品専門店 地図 P.17 - B2



ご愛用の硯を研ぎ直し目立てをします。面を整地し直し厳選された砥石をかけ、仕上げに丸一日かけます。これを行うのと行わないのでは、使用感、見た目にも驚くほどの違いが出ます。是非一度お試しください。

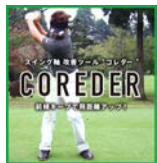
電 03-3844-2976
住 台東区寿4-1-11
営 平日9:00~18:00
第1・3日曜10:00~17:00
休 第2・4・5日曜、祝日



<http://houkendo.co.jp>

65 グリーンジャケット

こだわりのゴルフ用品 地図 P.17 - B1



梅雨時のゴルフの必需品!夏場や雨のゴルフでグリップが滑りませんか?ゴリラゴールドが滑りを全て解決します。(全国販売店募集中) 他所で見られないゴルフグッズをいろいろ揃えています。

電 03-5801-0940
住 台東区寿3-12-5 403号
営 10:00~18:00
休 日曜日・祝日



<http://www.green-jacket.co.jp/>

66 村石電気工事 (仲見世会館そば)

電気工事業 地図 P.14 - B2



右の写真は当社が電気工事をした、汐留シティーセンタービル41階のFISHBANK(フランス料理店)です。このような工事を手かけ、また特殊ランプ等も販売しています。是非一度お立ち寄り下さい。

電 03-3845-2345
住 台東区浅草1-32-9
営 08:00~17:00
休 日曜日



<http://www.asakusa.gr.jp/shop/muraishi.html>

67 浅草ビューホテル

ホテル業 地図 P.16 - B2



江戸情緒を色濃く残す「浅草」。東京の新たなシンボル「東京スカイツリー」を目の前に、ますます活気に満ち溢れる「浅草」で気取らぬあなたにかいおもてなしで国内外のお客様をお迎えいたします。

電 03-3847-1111 (代表)
住 台東区西浅草3-17-1
営 チェックイン15:00
チェックアウト12:00



*予約の宿泊プランにより異なる場合があります。
休 無休 <https://www.viewhotels.co.jp/asakusa/>

御神木「槐」の木の由来(ごしんぼく「えんじゅ」)

槐は中国原産の豆科の落葉高木で、高さは10mにもなります。初夏黄白色の蝶形の花を付け、中国では記念樹として植えられますが、日本では街路樹などにも多く植えられています。浅草寺境内の槐の木は、枯れては生えているので絶えることがないそうです。浅草寺のご本尊の聖観音菩薩は推古天皇の頃、漁師であった檜前浜成・竹成兄弟により網得されて川辺の槐の木の切株に安置されましたが、土師仲知が自宅内に堂を設けて観音様をお祭りしたのが浅草寺の起こりだと伝えられています。また、仲知達の子孫が3人を神様としてお祭りしたのが三社権現社です。



槐の会からのお知らせ

浅草槐の会(あさくさえんじゅのかい)は、浅草寺のご本尊の聖観世音菩薩が、推古天皇36年(628年)3月18日、隅田川で示現され、槐の木の切り株(現在の駒形堂あたり)に安置されたといういわれから「浅草槐の会」と称しました。浅草槐の会では、楽しい浅草情報を、ホームページ、瓦版、などで紹介いたしております。また、四季折々の浅草を自由に、楽しく散策していただきたく、地図、歳時、名所、旧跡を中心に編さんした『日本の扉浅草』を刊行いたしております。この冊子が、皆様の浅草散策のお役に立てば幸いです。



えんじゅ
浅草槐の會事務局

※この冊子は、槐の会会員店舗にて無料配付しております。

浅草文化観光センター



台東区浅草文化観光センターは、浅草寺を中心とする浅草の文化的遺産の保護・再発見に努めるとともに、広く全国に紹介するための施設。浅草の持つ特有の庶民文化や行事等の故事来歴などを紹介している。2012年4月20日(金)にリニューアルオープンしました。

開館時間午前9:00～午後8:00(年中無休)

台東区観光ボランティアガイド

台東区では、観光に来られた方の案内役として「観光ボランティアガイド」制度を設けています。利用できる人数は、2～3名の小グループから団体まで幅広く、「浅草寺を中心とした思わぬ発見コース」など、さまざまなご相談に応じてコースを設定してご案内しています。台東区観光ボランティアガイドに関する詳しいお問い合わせ、お申し込みは次のところまで。

台東区観光ボランティアガイド事務局

- ☐ TEL:03-3842-5599 FAX:03-6673-3046
- ☐ ホームページ <http://www.taitouboragai.com>

